

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

東員町教育委員会

【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の概要】

○実施校数 ○実施児童生徒数

小学校（6校）・6年生：240人

中学校（2校）・3年生：225人

○学力に関する調査 ○学習や生活の状況・学校の取組に関する調査

小学校：国語A・国語B・算数A・算数B 児童アンケート

中学校：国語A・国語B・数学A・数学B 生徒アンケート

※Aは、主として「知識」に関する問題、Bは、主として「活用」に関する問題

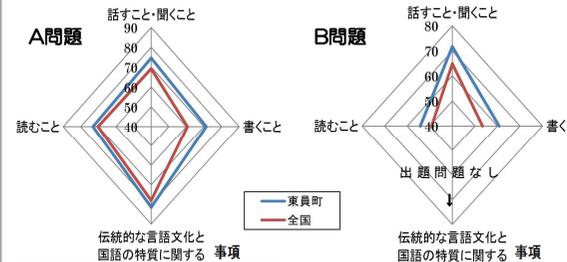
【調査結果の取扱い】

本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう各教科別に各領域の正答率をリーダーチャートで記載しています。

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

国語

○小学校



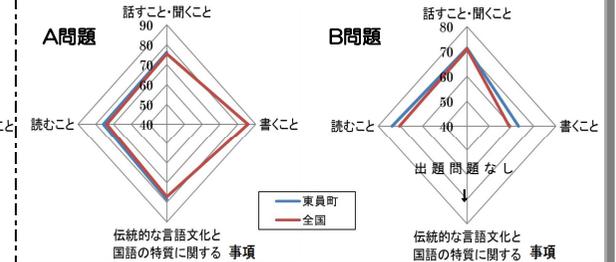
【全体的な傾向と課題について】

A問題については、各領域の正答率のバランスが取れているが、手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛名のそれぞれの位置についての理解と、漢字では、同音異義語に課題。B問題では、出題された3つの領域において全国平均を上まわっているが、読むこと（自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える）、書くこと（目的や意図に対し、必要な内容を整理して書く）においては、課題が見られた。

★指導のポイント★

- ・正しく漢字を使い分ける学習
- ・具体的な叙述を基に理由を明確にし自分の考えをまとめる学習

○中学校



【全体的な傾向と課題について】

昨年度に引き続き、A問題については、4領域のバランスもよく基礎基本的な知識技能が身につけていると言えるが、楷書と行書との違いを問われる問題の正答率が37.3%と低かった。B問題では、伝えたい事実や事柄が相手に効果的に伝わるように書いたり、相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように話す力に課題が見られた。

★指導のポイント★

- ・比喩を用いた表現で感じたことや考えたことを書く学習
- ・スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて話す学習

学力調査の検証にかかる東員町の教育努力目標

【確かな学力】

○小学校

- ・学んだこと（基礎基本）を生かしながら、仲間とともに新たな課題を乗り越える力を育みます。
- ・対話力、活用力を生かしながら、課題を克服できる力を育みます。

○中学校

- ・目標に向かって、計画的・継続的に学習できる力を育みます。

【豊かな心】

○小学校

- ・仲間とともに学び合うことに喜び感じられる心を育みます。
- ・困っている子に気づき、相手の立場に立ち、考えられる心を育みます。

○中学校

- ・自分の将来や生き方について考えられる力を育みます。
- ・社会の発展に貢献しようとする心や力を育みます。

【健やかな体】

○小学校

- ・規則正しい生活習慣と、進んで運動したり外遊びをしたりする習慣を身につけます。

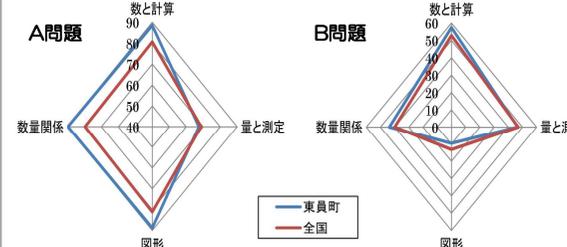
○中学校

- ・規則正しい生活習慣を確立し、体力をつけようとする力を育みます。

（東員町16年一貫教育プランより）

算数・数学

○小学校



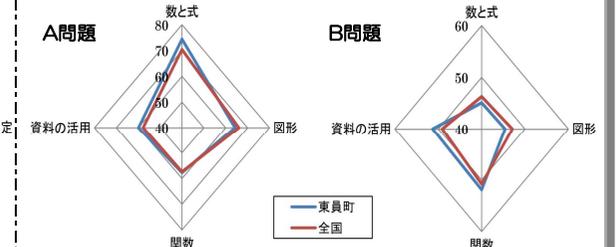
【全体的な傾向と課題について】

A問題では量と測定（任意単位による測定、高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係）、B問題では図形（身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる）が課題といえる。問題形式においては、選択式、短答式、記述式において、全国の平均正答率を上回った。しかし、記述式の正答率は、依然、35.7%と低く、国語同様、書く力に課題が見られた。

★指導のポイント★

- ・長さ、長さについて任意単位による測定を基に比較する学習
- ・与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉える学習

○中学校



【全体的な傾向と課題について】

A問題では、扇形の弧の長さを求めること、関数の意味を理解すること、与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることに課題が見られた。B問題では、すべての領域で記述式の問題の正答率が11.6%~21.9%と低く、国語の書く力とも関連するが、数学的な表現を用いて論理的に説明する力が弱い。

★指導のポイント★

- ・反比例の表から比例定数を求める学習
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する学習

リーダーチャート図の見方：各教科で学習指導要領に示されている領域の正答率をグラフ化したものです。それぞれの領域の正答率が高いほど、グラフの形はバランス良く大きくなる傾向にあります。